

ニーズレター

発行日 2022年 7月 22日
特定非営利活動法人 グループホームネット香川

夏号



サンポート 赤灯台

もくじ

○ 巻頭言	2
○ 総会の報告	3
○ グループホームと関わって	4
○ 利用者の声	5
○ 新人ホームワーカー紹介	7
○ 事務局だより	8
○ 編集後記	8

巻 頭 言

我々の感染対策マニュアル

理事長 細谷 要一

2022年度総会は、感染予防のためやむを得ず「書面表決・表決委任」方式をとり理事長、議長ら必要最低限の役員が集まり開かれました。会員皆様のご理解とご協力をいただき、無事に総会を終えることができましたことを感謝申し上げます。

総会に引き続き開かれた理事会において、理事互選により理事代表に選出されました。長期になりますが、理事の皆様と共に法人の運営を進めていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

自粛生活も2年半を過ぎました。ここにきて誰しものが疲れ、ストレス解消のために旅行や遠方への買い物に動き出した人も多くなったようです。確かに最近の変異株は急増した感染者数に比べると死亡率は低く、また若年者の重症度は高くないため恐れる気持ちも変化してきたように思います。しかし、新型コロナの後遺症は「普通の風邪とは大違いで脅威だ」とも言われていて侮れません。

昨年夏、第5波に入り重症者も増え、より身近に感染を感じるようになっていました。そのころ「我々のグループホーム内に感染者、濃厚接触者が出たら誰がどう看病するのか、ホームワーカーが感染者等になったら応援体制は…」との心配が大きくなってきたようでした。そこから利用者とスタッフで我々のグループホームのための対応マニュアルを作ろうということになりました。

利用者からは「自分が感染したら精神的ダメージはどれほどかわからない」「濃厚接触者になったら買い物はどうなるのか、ごみはどう処分するのか、消毒は…」「通院は、薬は」「職場復帰はできるのか」「自宅待機中に症状悪化したら頻繁に確認に来てもらいたい、救急車の連絡は」等、切実な疑問や不安・意見が寄せられました。それらを基にスタッフ、運営委員会、理事会で検討してスタッフの応援体制も含めての具体的対応案を作り、再度入居者と話し合い共有しました。年が明けて我々独自で作成したその「手引書」が、行政や保健師から提供・指導されたマニュアルの上に乗り、入居者・スタッフそしてこの法人のものになりました。結果は、マニュアルが身近なものとなり、利用者もスタッフも不安・動揺が和らいだようにみえます。

今年度は、総会で承認された法人の事業計画の他に、課題として次のようなことがあります。

- ・利用者の中から「ピア活動」への協力の要請があり、法人としてその支援のあり方について検討する

- ・新任の理事が加わったことから、理事の役割の検討、再編し組織力を高める

これからもグループホームネット香川は、精神保健福祉の向上と障害があってもふつうの社会生活が送れるような環境づくりを進めていきます。

総会の報告

2022年度 定期総会を終えて

サービス管理責任者 増田 周作

2022年6月15日（水）午後7時半より、当法人事務所で2022年度定期総会を開催しました。正会員29名のうち25名の参加（出席・書面表決・表決委任）をもって無事に終了いたしました。

コロナ禍で迎える3回目の総会、来年こそは、皆さまにお会いできるのではないかと考えております。

さて、2022年度総会の議案書の内容について、簡単に整理してお伝えします。

事業報告について

- ・グループホーム「ビアーズ伏石」が開設され、入居者はすでに3名入居し、それとともなってグループホーム全体の定員が増加した
- ・新型コロナウイルス感染予防対策の一環として、利用者と一緒になり感染防止と感染者が出た場合のマニュアルを作成した
- ・現在のところ、入居者、職員から感染者は出ていない

収支決算報告について

- ・新規立ち上げ等で費用、立ち上げの遅れと予定外の退去等があったことで、予算に比して赤字が発生した
- ・所轄庁より業務中の入居者、職員のケガへの補償に関する損害保険への加入についての指導があり、社会福祉法人 全国社会福祉協議会が出している保険プランに加入した

事業計画案について

- ・支援職員のメンタルヘルスのために、当面ストレスマネジメントを中心に研修等を実施する

収支予算案について

- ・事業計画案に基づき、例年の実績に応じて割り振りをおこなった

役員改選について

- ・理事会の提案通り、新任理事1名の増加が承認された

関係者からの声

グループホームと関わって

ペンネーム 大家

私が所有しているアパートは約 20 年前に近隣の大学・短大の学生用のために建てました。当時は学生が多く入居しておりましたが、苦情（主に騒音）等の関係で対応が大変だったことを今も覚えています。

ある年のこと管理会社から「この周辺一帯は調整区域解除になる」という情報がありました。そうこうしている内に気がつけば大学近くはもちろんのこと周辺にどんどんアパートが建ち始め、周囲は田畑ばかりだったのにみるみる内に様変わりをしていき、今後の経営に不安を感じたことは言うまでもありません。

所有しているアパートは南向きではありません。建築の際、やむを得ない事情があったのです。また、すぐ近くには賃貸物件も多くなり、やがて空室が目立つようになりました。そんな状況の中、管理会社から「グループホームに部屋を貸してみませんか」という話をいただきました。

話を聞いてみると、グループホームは精神障害のある方の生活の場を探しており、職員（世話人）も配置されるということでした。精神障害者という言葉聞いた時、全くそのことは気になりませんでした。以前、精神障害者のグループホーム建設ということで、周囲の理解を得られないという内容の番組を観たことがありました。むしろ私の気持ちは地域で暮らすことを応援したい思いがあり、もちろん今もその思いは変わっていません。

現在アパート 12 部屋ある内、グループホームに 8 部屋お貸ししています。顔なじみの入居者の方もあり、気軽に挨拶ができる間柄です。ビアーズに入居されている方たちが、自分らしく生き生きと生活をされている姿を日々拝見して、私も元気をもらっています。何か困ったことがあればいつでも声をかけてください。何気ない日常の会話でも歓迎します。これからもよろしくお願いします。

大家さんへ

入居当初慣れない生活に不安を感じていた頃、私に話しかけていただいた日のことを今でもはっきりと覚えています。どれほど嬉しかったことか。

車がお好きなのですか？いつもピカピカに磨かれていますね。実は私は大の車好きなのです。いつの日か大家さんと車のお話しができればと思います。私にとってビアーズはかけがいのない居場所です。

入居者より

修理のこと等、毎回迅速に対応していただきありがとうございます。

大家さんと直接お話しができるのはこちらのビアーズだけだと聞いております。グループホーム周辺には『スーパー、コンビニ、病院など日常の生活に欠かせない施設があり、とても住みやすい場所である』と入居者の方たちはいつも話しており、とても良い雰囲気与生活を送られています。これもひとえに大家さんのお人柄のおかげだと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

職員（ホームワーカー）より



利用者からの声

グループホーム

ペンネーム アガサ

ここに来て、11年になります。ここを知るきっかけは、市役所の1階にある市民相談所です。そこでいろいろと話しをしたら、相談員の人が6階にある女性相談センターを紹介してくれました。その日は話しをしていた時間が長くなり、家の用事がたまっていたので、すぐには行けませんでした。

何日か経って、ようやく行くことが出来て、1階で話しをしたことと同じことを、女性センターの人に話しをしたら、ライブサポートを紹介してくれ、電話をしてくれました。二日後に、ライブサポートに自転車で行きました。

ライブサポートの相談にのってくれた人は「一日も早く今の家を出た方がいい。それに、ここはあなたの家から近いので、もっと遠くで安全な場所を」ということになり、探してくれたのが、今住んでいるところです。

来た時には何もわからなかったけれど、ひとつひとつ丁寧に教えてくれる先輩の入居者がいました。その中のひとつに厳しく言っていたことがあります。それは『昼前には共同部屋から帰ること』『世話人さんの休憩時間の邪魔をしないこと』『夕方5時30分には共同部屋から帰ること』『世話人さんの仕事の邪魔をしないこと』でした。

このことは私がここに来る前から、入居者同士が話し合っていて決めていたそうです。もちろん先輩の入居者が退去された後も、自然と引き継がれています。その他にもさまざまなルールがありますが、書くと長くなるので省略します。

それが当たり前だったのに新しく来た人は、そのことが全然というか全く出来ない人です。今までそのことやルールをきちんと守ってきた人々は、全員が口には出さないけれど、腹立たしい気持ちでいっぱいになっているのはあきらかです。



新人ホームワーカーの紹介

新人ホームワーカーとして

ホームワーカー 坂上 貴子

ホームワーカー（以下、HW）として本年4月に入職し新人研修を受けはじめて、早や3カ月目です。各グループホーム（以下、GH）を新人研修の一環として訪問し、入居者の方とお会いして話をするという、何もかも初めての仕事の第一歩です。

振り返れば、精神疾患の人との最初の関わりは、子どもの頃（S35年～S40年頃）でした。薄暗い座敷牢での生活をしていた人の存在「私宅監置」（この言葉はつい先日知りました）を目の当たりにしていたことです。子どもなりに、同じ人間（大人）なのに何故当たり前のようにそういう生活をやらされていたのか。大人になってからも、その事実について、家族がそうせざるを得なかったのか。その人の子ども達は、監置された人の心は、疑問と得も言われぬ憤りがずっと残っていました。

しかし、理事の方々からのGHの役割やグループホームネット香川が目指すもの等の個別研修の中で、精神疾患に関わる歴史や国の施策の未熟さを知り、改めて「私宅監置」の背景や理由、当事者の置かれていた立場等を知ることができ、何だか私の中のキリが晴れたようでした。

精神疾患のある人間として地域で生活していくことが当たり前であること、偏見なく生活できるような地域であることが大事なのではないかと思います。

安心して生活できる場所の提供と支援を行っていくグループホームネット香川の存在は、精神疾患がある人が人として自立して当たり前に生活できる権利を表明していく砦であり、活動なのではないかと気がついた次第です。

そうは言っても、HWとして精神科医療や福祉制度についての知識も浅く、仕事は不安だらけです。入居者の方々とのお話は緊張するし、体調への気づきや心配り、言葉づかい、私にできるのかしら等々気にかかることばかりです。

そのような中、ある方から「入居者をあなたの家族と考えたらどんな話や話し方をしますか？」「HWも入居者の方も日によって気分も体調も違う、それが当たり前のですよ」と、アドバイスを頂き「あっ、そうなんだ！」と気づかされました。私自身の中で何かに囚われ、構えていたところがあったようです。

入居者の方々から教わるのがたくさんあり、目からウロコの日々です。

HWの皆さんや理事の方々のアドバイスやサポートを受けつつ、HWの勉強を続けています。

今、入居者の方のお話を聞きながら、嬉しいことは共に喜び、困りごとを聴けば「どうしましょうか」と一緒に悩み、考え、行動できるHWとして自然体でやっていければいいのかなあ、と思っています。

事務局だより

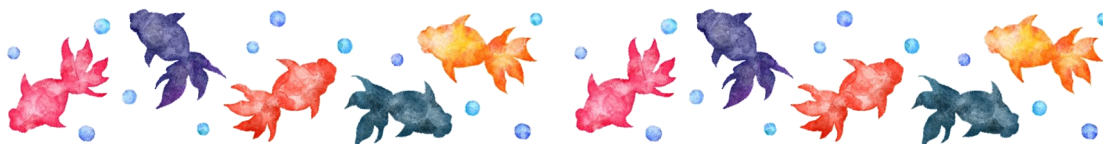
事務局 増田 周作

ビアーズ伏石がスタートして半年が過ぎました。

年明けからの新型コロナウイルスの感染者数の増加とともに、グループホームの入居に関する問い合わせが減っていましたが、ゴールデンウィーク明けからは、徐々に増えています。

記事にもあったように、4月からは職員が1名増え、6月の総会で理事1名が新しく承認され、法人の体制も変化しつつあります。

今後の展開にも期待していただけたいと思っています。



編集後記

私がニーズレターの編集にかかわって、早5年目になります。

皆様のお力添えにより今回まで計画通り発行することができました。これもひとえに入居者をはじめご家族、外部の関係機関、そして大家さん等からご投稿いただいたことによるものと確信しております。

機関誌の内容も頂いた原稿の素晴らしさによって、少しずつ変化がみられるようになり、改めて皆様のお力添えと感謝をしております。地域で自立した当たり前の生活をするというNPO法人の趣旨に沿ったグループホーム運営が地域住民をはじめ多くの人に理解されるよう、これからも機関誌ニーズレターの内容を充実させるべく編集委員一同努力をいたします。これからもどうぞよろしくお願いします。

なお、今年は猛暑のおり、くれぐれもご自愛ください。

(天満)

(発行) 特定非営利活動法人 グループホームネット香川

連絡先： 香川県高松市成合町559番地15

TEL：087-885-5270 FAX：087-887-5955